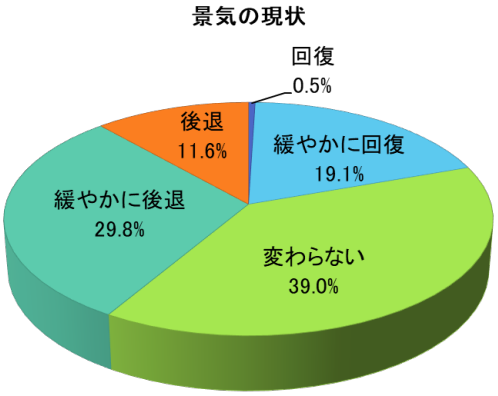
**大分商工会議所　第７８回景気動向アンケート調査結果（２０２０年１０月調査分）**

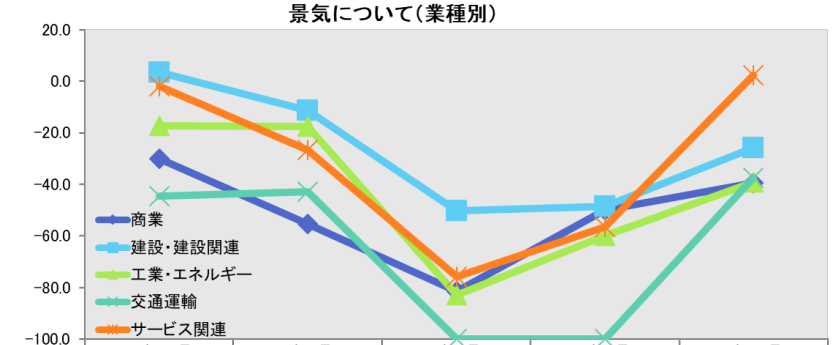
**調査対象：当所会員２１５事業所へ経営指導員が原則聴き取りで調査**

ＤＩ値：ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値。

## Ⅰ．景気について

- 2020 年 7 月～9 月の景況 DI は、前期▲55.3 から 33.5 ポイント上昇の▲21.8 となり、2 期連続の上昇となった。なお、前年同期比（2019 年 7 月～9 月）は 8.5 ポイントの下降。
- 「回復」(0.5%→0.5%)、「緩やかに回復」(10.1%→19.1%)、「変わらない」(23.5%→39.0%)、「緩やかに後退」(41.5%→29.8%)、「後退」(24.4%→11.6%)。
- 業種別 DI では、全業種で上昇。

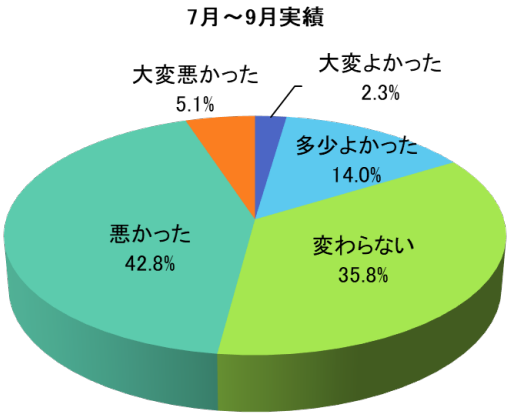


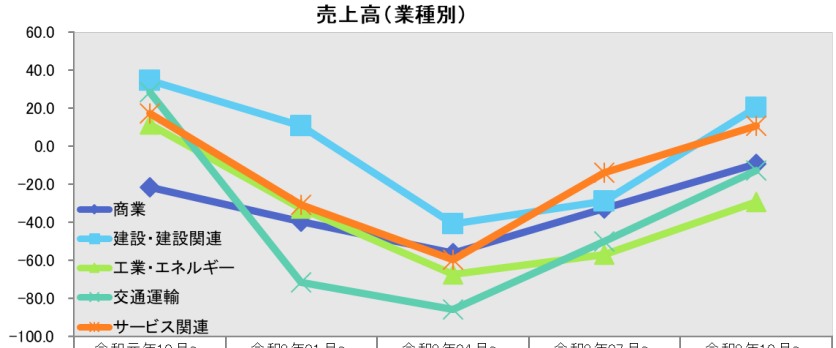




| | 元年10月 | 2年1月 | 2年4月 | 2年7月 | 2年10月 |
|---|---|---|---|---|---|
| 商業 | -30.0 | -55.3 | -81.4 | -50.0 | -39.5 |
| 建設・建設関連 | 3.4 | -11.3 | -50.4 | -48.7 | -25.8 |
| 工業・エネルギー | -17.4 | -17.6 | -83.0 | -60.0 | -39.2 |
| 交通運輸 | -44.4 | -42.9 | -100.0 | -100.0 | -37.5 |
| サービス関連 | -1.9 | -26.8 | -75.9 | -56.6 | 2.3 |

## Ⅱ．売上高について

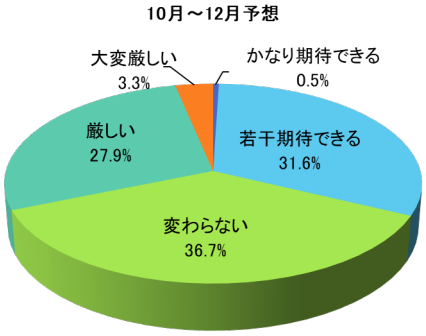
- 2020 年 7 月～9 月の売上実績 DI は、本調査開始以来最悪であった前期▲57.1 から 25.5 ポイント上昇の▲31.6 となった。なお、前年同期比（2019 年 7 月～9 月）は 40.4 ポイントの下降。
- 業種別の売上実績 DI では、全業種で上昇。

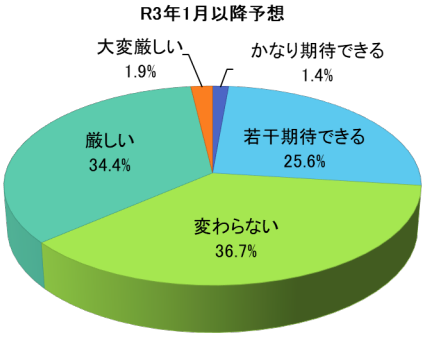



| | 令和元年10月～（実績） | 令和2年01月～（実績） | 令和2年04月～（実績） | 令和2年07月～（実績） | 令和2年10月～（予想） |
|---|---|---|---|---|---|
| 商業 | -21.3 | -39.5 | -56.3 | -32.6 | -9.3 |
| 建設・建設関連 | 34.6 | 10.7 | -40.7 | -28.8 | 20.4 |
| 工業・エネルギー | 11.5 | -32.6 | -67.1 | -56.7 | -29.2 |
| 交通運輸 | 28.6 | -71.4 | -85.7 | -50.0 | -12.5 |
| サービス関連 | 17.4 | -30.7 | -59.7 | -13.7 | 11.0 |

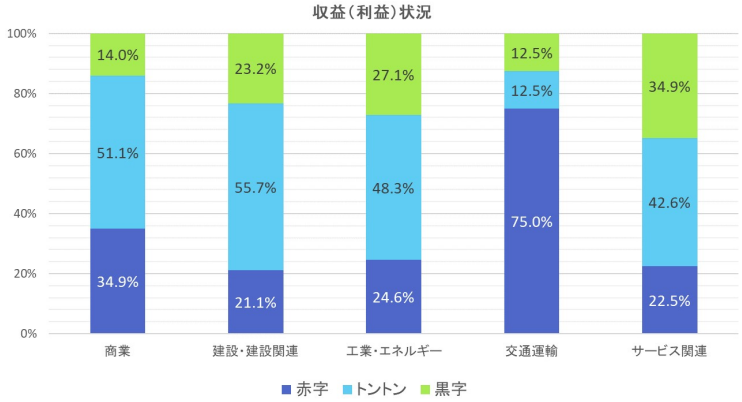
- 売上予想 DI について、来期（2020 年 10 月～12 月）は 0.9 とわずかながらプラスに転じるも、2021 年 1 月以降は▲9.3 と依然として厳しい見通し。
- 来期（2020 年 10 月～12 月）の売上予想 DI について、全業種で上昇。



## Ⅲ．収益（利益）状況について

- 「黒字」（18.9%→21.4%）、「収支トントン」（41.0%→47.9%）、「赤字」（40.1%→30.7%）となり、収益状況は改善。
- 業種別では、「交通運輸」のみ赤字割合が増加（42.9%→75.0%）。

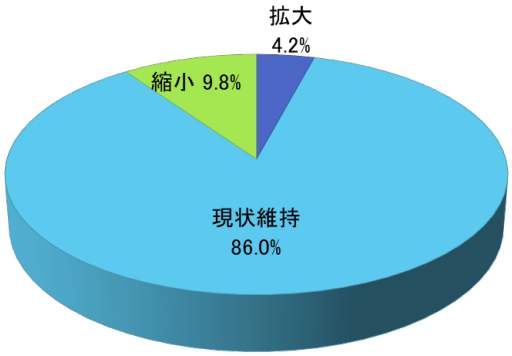



## Ⅳ．雇用状況について

### （１）これからの臨時・派遣従業員等の利用について

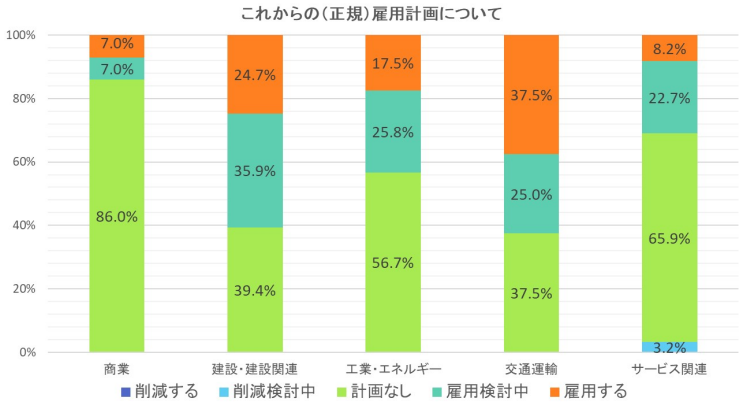
- 「拡大」（4.8%→4.1%→4.2%）、「現状維持」（88.5%→87.1%→86.0%）、「縮小」（6.7%→8.8%→9.8%）となり、「縮小」が少しずつ増加傾向に。

これからの臨時・派遣従業員の利用について



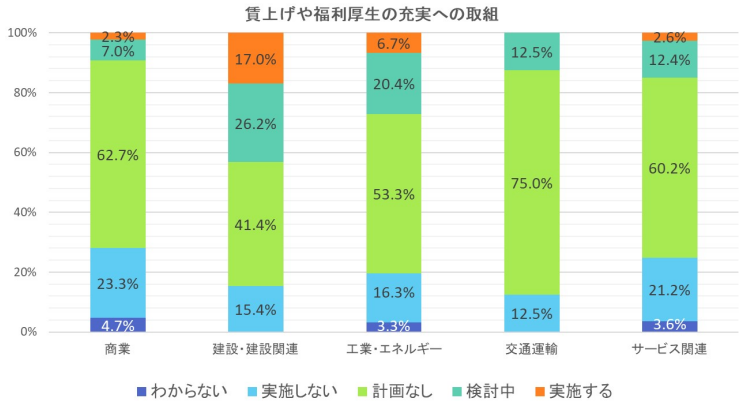

### （２）これからの（正規）雇用計画について

- 正規雇用は「雇用する」「検討中」を合わせて36.3%で、前期33.2%から3.1ポイント上昇。
- 業種別では、「工業」以外は「雇用する」「検討中」の合計割合が増加している。




### （３）賃上げなど雇用報酬や福利厚生の充実

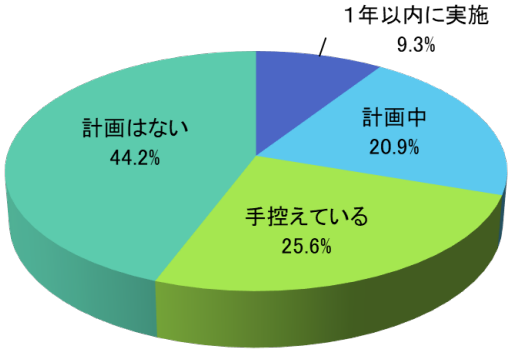
- 「実施する」「検討中」を合わせて20.4%で、前期24.0%から3.6ポイント下降。
- 業種別では、「建設・建設関連」以外で「計画なし」が増加。




## Ⅴ．設備投資について

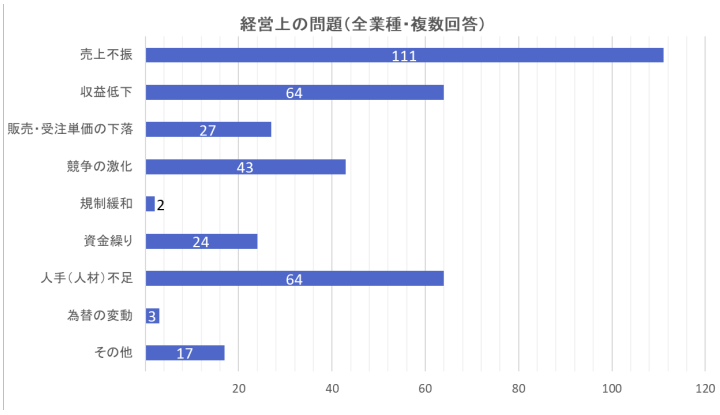
- 「１年以内に実施」「計画中」（19.5%→25.8%→30.2%）、「手控えている」「計画はない」（80.5%→74.2%→69.8%）となり、投資意欲は上昇。

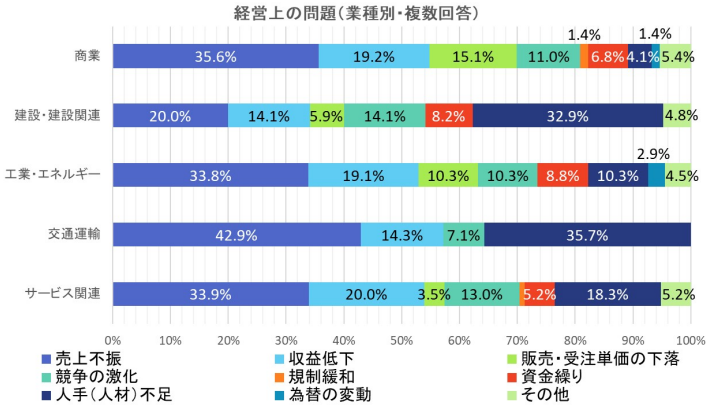
設備投資について



## Ⅵ. 経営上の問題について（複数回答）

- 前期、前々期に引き続き「売上不振」「収益低下」「人手（人材）不足」の順となった。
- 業種別では、「建設・建設関連」「交通運輸」で「人手（人材）不足」と回答した事業所の割合が多くなっている。

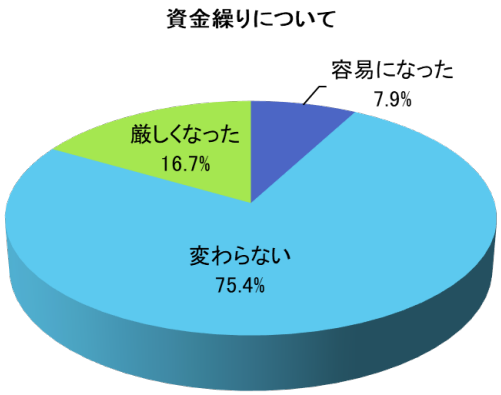


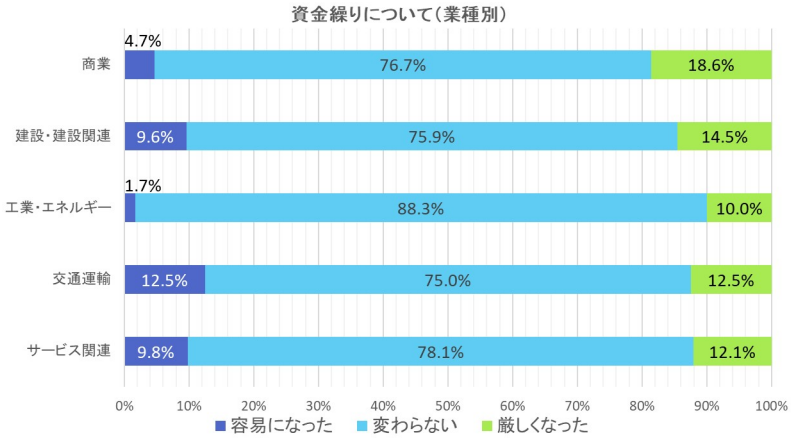




## Ⅶ. 資金繰りについて

### （１）現状の資金繰り

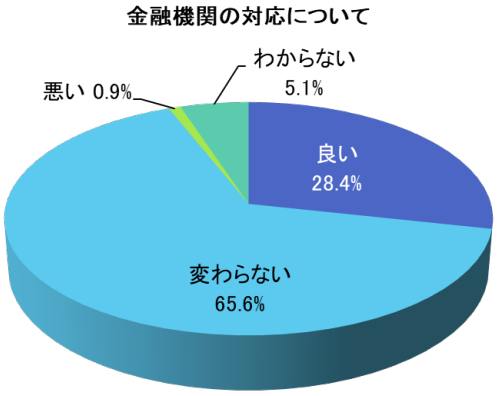
- 「容易になった」が前期 11.5%から 3.6 ポイント下降の 7.9%、「厳しくなった」は前期 15.2%から 1.5 ポイント上昇の 16.7%となっており、資金繰りはやや悪化。
- 業種別では、「交通運輸」以外でで「容易になった」が減少。

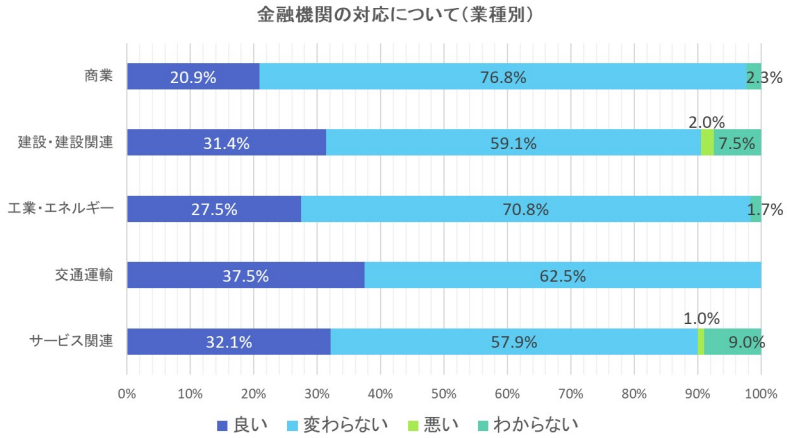



### （２）金融機関の対応

- 「良い」が前期 30.9%から 2.5 ポイント下降の 28.4%、「悪い」が前期 2.3%から 1.4 ポイント下降の 0.9%。

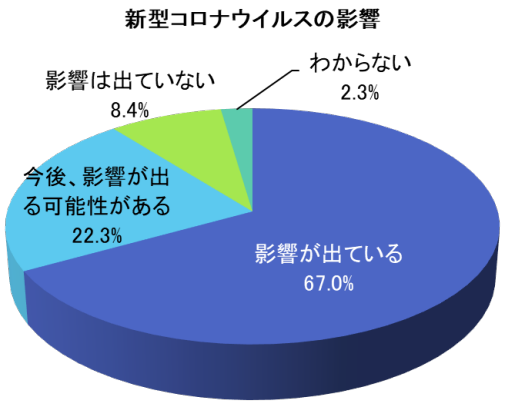


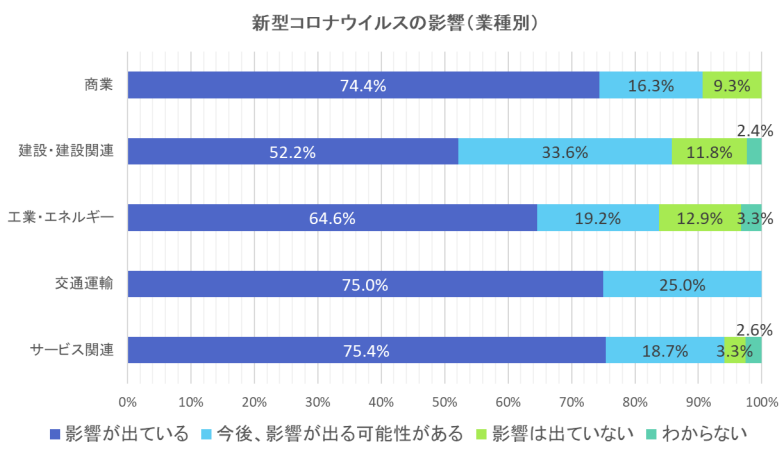



※新型コロナウイルスの感染拡大による企業活動への影響等についての付帯調査

## Ⅷ. 新型コロナウイルスの感染拡大による企業活動への影響

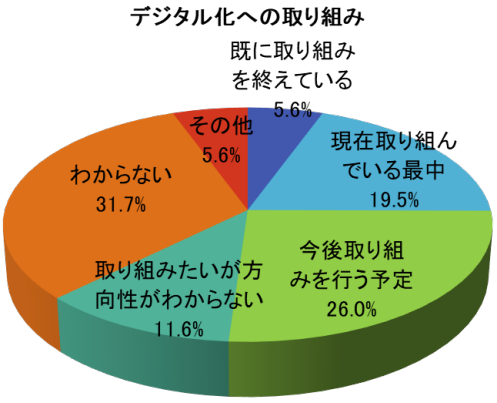
- 「影響が出ている」「今後、影響が出る可能性がある」を合わせて 89.3%で、前期 86.2%から増加。
- 業種別では、「建設・建設関連」で「影響が出ている」が減少（71.4%→52.2%）する一方、「交通運輸」では大幅な増加（42.5%→75.0%）となっている。

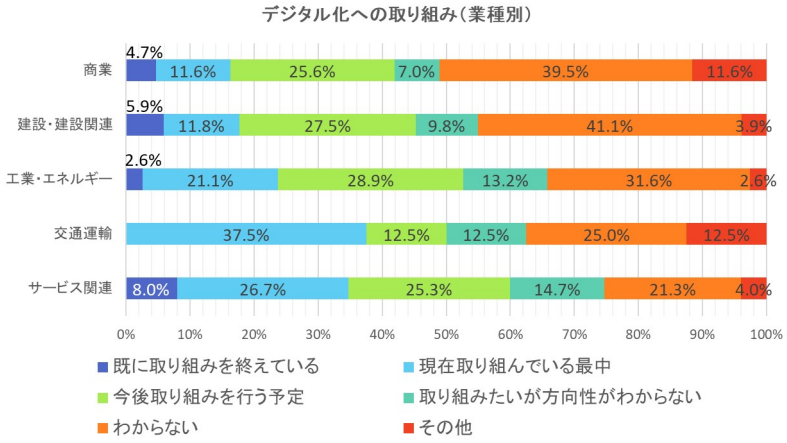



## Ⅸ. 新型コロナウイルスの感染拡大に伴うデジタル化への取り組み

- 半数以上の事業所が予定も含めて何らかの取り組みを行っている一方で、「方向性がわからない」「わからない」と回答した事業所も 4 割を超えている。
- 業種別では、「サービス関連」が他業種に比べると積極的に取り組んでいる結果となった（予定も含めると 6 割）。




## まとめ

景況感について、2020 年 7 月～9 月の景況 DI は前期▲55.3 からは 33.5 ポイント上昇の▲21.8 となり、2 期連続の回復となった。また、業種別 DI でも全業種で上昇しており、景況感は持ち直しに向けた動きがみられる。

売上高について、実績 DI は前期▲57.1 から 25.5 ポイント上昇の▲31.6 となり、業種別でも全業種で上昇した。なお、来期（2020 年 10 月～12 月）の予想 DI は 0.9 とプラスに転じるも、2021 年 1 月以降は▲9.3 のマイナス域となっており、先行きには不透明感が漂う。

大分県では、9 月以降新型コロナウイルスの新規感染状況は小康状態にあり、事業者は現在、感染拡大防止対策を講じつつ社会経済活動の再活性化に向けて懸命に取り組んでいるところである。今後は、年末商戦による需要増や疲弊した景気・経済を再興させることを目的とした「ＧｏＴｏキャンペーン事業」等各種施策の効果に大いに期待するところである。